

## 公共交通を基軸にまちづくりを進めているブラジルのクリチバをご紹介します。

### ■ブラジルの環境首都クリチバ■

・クリチバ市はブラジル南部パラナ州の州都で、人口約150万人の都市です。1989年に環境都市を宣言し、1992年の地球サミットでは環境改善に貢献した都市として表彰されています。

### ■公共交通を基軸としたまちづくり■

・クリチバの特徴は、公共交通（バス交通）を基軸に、まちづくりを行っていることです。市の中心部から郊外に伸びる5本の公共交通の骨格軸には急行バスが走り、そこから各コミュニティにつながるバス網が市街地に張りめぐらされています。急行バスの走る骨格軸沿いは帯状に高層ビルが立ち並び、その背後の住宅地区との境界が明快です。公共交通の骨格軸に近いほど、高密度な土地利用が誘導され、交通機関の利便性を高めているのです。



クリチバの全体図



都市軸を走るバス

ご意見をお寄せください。

[e-mail/sendai-pt@pref.miyagi.jp](mailto:sendai-pt@pref.miyagi.jp)

(ニューズレター「ひと・まち・交通」を読まれた感想や、パーソントリップ調査の結果についてのご意見をお寄せください。スペースが足りないときは別紙でFAXをお願い致します。)

**このままFAX022-211-3295へ**

### ■ご意見

-----  
 -----  
 -----  
 -----  
 -----  
 -----

お名前 男・女 才 電話 - -

ご住所〒 お仕事

### 計画策定の進め方

仙台都市圏総合都市交通協議会は、みなさんと共に計画の策定を進めています。

平成14年度 現在の交通状況を調べました。

平成15年度 交通問題を解消するために検討を行いました。

平成16年度 仙台都市圏の総合的な都市交通計画をつくります。

仙台都市圏総合都市交通協議会  
宮城県・仙台市

問い合わせ先

- 宮城県都市計画課 企画調査班 022-211-3134
- 仙台市交通計画課 調査係 022-214-8302

# ひと・まち・交通

ニューズレター第5号ができました

ぼくと、わたしが案内役中を、見てね



### ●特集

- 20年後の仙台都市圏の交通のすがたを考えてみました。
- 暮らしやすい仙台都市圏を考えてみよう
- まちのすがたと交通・環境への影響は…
- 20年後をめざすシナリオは…
- 将来に向けて、私たちができることは…

### ●公共交通を基軸にまちづくり事例

パーソントリップのホームページを開設しています。みなさんでご覧ください。

ホームページアドレス(宮城県): <http://www.pref.miyagi.jp/tosikei/>  
 ホームページアドレス(仙台市): <http://www.city.sendai.jp/toshi/kotsukeikaku/>  
 E-mailアドレス: [sendai-pt@pref.miyagi.jp](mailto:sendai-pt@pref.miyagi.jp)



FAXの方はここで切り取って左側をお送りください。



# 20年後の仙台都市圏の交通のすがたを考えてみました。

「ひと・まち・交通」5号をお届けします。

仙台都市圏パーソントリップ調査の分析をすすめる中で、郊外に新しく開発された地域では自動車がないと生活が成り立たない状況や、自動車への依存率が50%を超えるなどの問題点が明らかになりました。今回は、そのような問題をふまえながら、将来の仙台都市圏の都市交通はどうあるべきかを考えてみましょう。

## 暮らしやすい仙台都市圏を考えてみよう

男の子

将来のくらしと交通ってどうなるんだろう？

女の子

誰もが移動しやすく住みやすいまちになるといいわね。

先生

そうだね。20年後（2025年）のくらし方と交通のすがたを考えると、これからは高齢社会になり、さらに人口が減少すると予測されているだろう。そうなのでも仙台都市圏に住む人々の暮らしを維持し、次の世代にバトンタッチできるよう、持続可能な仙台都市圏をめざすという視点が大切だよ。そのために複数のシナリオを作って検討し、評価してみよう。

どんなシナリオが考えられるのですか？

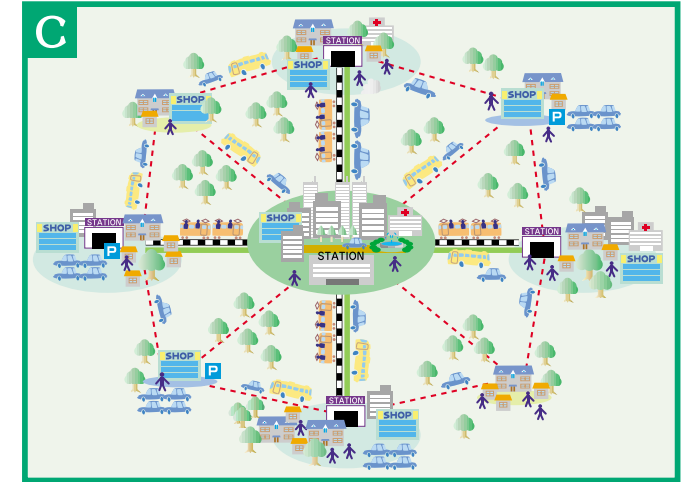
一つは、郊外に市街地が拡大していくという、現在の傾向が続くシナリオA。図Aのようなイメージになります。もう一つは、公共交通が便利な地域に市街地を集めてしまうという、シナリオB。図Bのようなイメージになります。

## 20年後をめざすシナリオは…

うーん、これから先の20年を考えたとき、シナリオBまで一気に進むことは難しいから、その過程では当面できることから始めなくてはいけません。

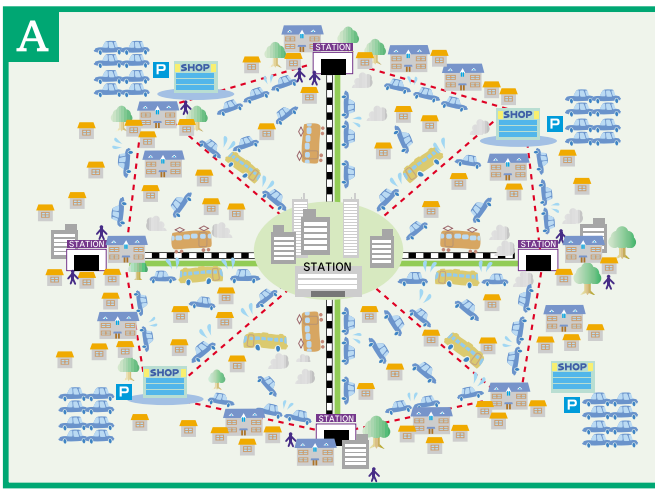
何ができるんだろう？

それを考えたのがシナリオCです。その基本的な考え方は、交通の政策と、まちづくりの政策が、手を取り合って進むということなんだ。交通体系の整備の中心を鉄道やバスなどの公共交通に移し、さらに便利に利用しやすいサービスを提供すること。それに合わせて、公共交通軸\*の駅などの近くに多くの人が暮らせるよう、たとえば駅の近くの利用されていない空き地をなくして、生活に必要な施設を集めること、高層の集合住宅を建てることなどが考えられる。



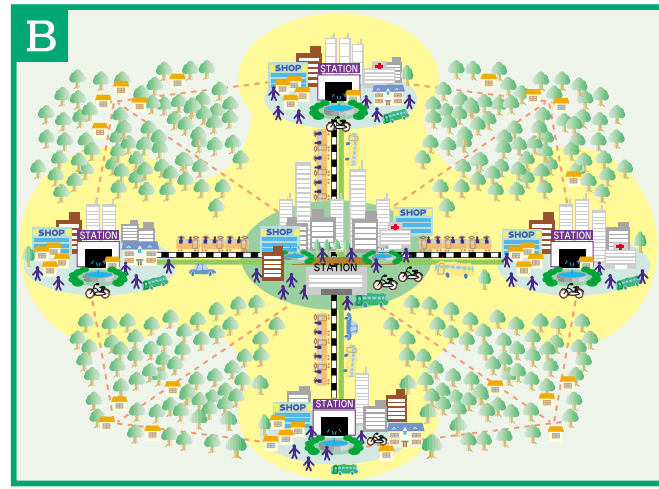
暮らしはどうなるのですか？

公共交通軸\*に沿った通勤・通学、その他の移動には鉄道やバスを利用し、高齢者の方も安心して「まち」に出かけられるようになるよ。もちろん公共交通軸\*から離れた場所に行くときは、クルマを使うことになる。



うわあ、Aはごちゃごちゃだ。

よ〜〜見てごらん。図Aは、クルマばかりが走りまわっていて、歩いている人が少ないよね。シナリオAは今よりもさらに郊外に住宅地が開発されて、クルマ中心の生活を送る人たちが増えて渋滞がさらに激しくなることも、バスなどの公共交通が使えづらくなります。そして、バスの利用者の減少により、路線の廃止されてクルマをもたない高齢者たちの生活の足が失われるかもしれない。



それに比べてBは、緑が多いし、すっきりしています。

図Bは、電車やバス、自転車を使っている人が多いね。シナリオBは暮らしの拠点となる駅の近くには、買い物や医療、文化、福祉、コミュニティ施設など、生活に必要な施設が集まっているので、その地域に住む人は徒歩や自転車で生活の用が済むようになるんだ。シナリオAとBとはまちづくりの方向が180度違うんだよ。

まちづくりの考え方って大切なんですね。

## まちのすがたと交通・環境への影響は…

シナリオAとシナリオBでは将来の交通や環境に与える影響はどう違うのですか？

シナリオBはシナリオAに比べてクルマから出る二酸化炭素は約10%も少ないんだよ。それから、鉄道やバスを利用しやすい人も約9%増えて、まちに集まる人の数もBのほうが約23%も増えるんだよ。

シナリオBのほうが環境にやさしくて住みやすいまちになるんですね。

## 将来に向けて、私たちができることは…

20年後のシナリオCに向かって、君たちにもできることはないかな。

自動車を使わずに、鉄道やバスだけで生活するのは難しいな。

毎日とはいわず、公共交通を利用できる人は、週に1度くらいはクルマを使わずに鉄道やバスで通勤してみたらどうかな。

そうだね。それから公共交通の便利なところに住んだり、郊外から都心に住み替えたりして、新しい暮らしがたに切り替えることも必要だね。「交通の主役は私たち」ということにみんなが気づくことが大切だね。

それならできそうだね。クルマは便利だけど環境のことを考えて、公共交通を利用できるときには、クルマの利用をひかえるべきだと思います。

次回はまちづくりと交通政策、交通行動への提言を特集します。ご期待ください。

\*公共交通軸：都市拠点間を結ぶ運行本数の多い鉄道や主要なバス路線など